

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 11 月 30 日 (2017.11.30)

【公開番号】特開 2016-142523 (P2016-142523A)

【公開日】平成 28 年 8 月 8 日 (2016.8.8)

【年通号数】公開・登録公報 2016-047

【出願番号】特願 2015-15735 (P2015-15735)

【国際特許分類】

G 0 1 J 3/45 (2006.01)

【F I】

G 0 1 J 3/45

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 10 月 20 日 (2017.10.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

物体面上の理想的な輝点から発せられた光線群は、導入光学系や結像光学系を構成するレンズの円形開口によるフラウンホーファー回折を生じ、エアリーパターンと呼ばれる同心円状の明暗パターンである干渉縞を結像面上に形成する。エアリーパターン（明暗パターン）は、その中心が「エアリーディスク」とよばれる明るい領域であり、その周りを複数の同心円環がとりまく。一般的に、エアリーディスクは、レンズの円形開口による多光線干渉現象として理解される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

【図 1】分光特性測定装置によって試料面から出射された測定光が固定反射面及び可動反射面によって反射された後、結像レンズによって結像面上に集光する様子を説明する図。

【図 2】固定反射面と可動反射面の間の角度ずれ量、結像レンズの焦点距離、結像面上の集光位置のずれ量の関係を示す図。

【図 3】固定反射面と可動反射面の間の角度ずれ量がゼロのときに結像面上に形成されるエアリーディスクの説明図。

【図 4】固定反射面と可動反射面の間の角度ずれ量が θ のときに結像面上に形成されるエアリーディスクの説明図。

【図 5】本発明の一実施形態に係る分光特性測定装置の概略構成図。

【図 6】位相シフタの全体構成を示す斜視図。

【図 7】第 1 治具の構成を示す図。

【図 8】第 1 実施例の判別方法を説明するための図であり、被測定物（人物）の撮影画像（a）及び中赤外画像（b）並びに固定反射面と可動反射面の傾きがほぼ同じであるときの測定光のインターフェログラム（c）及びこのインターフェログラムをフーリエ変換して得られるスペクトル（d）の例を示す。

【図 9】固定反射面と可動反射面の間の相対的な角度ずれ量を徐々に変化させたときのインターフェログラムの変化を示す図。

【図 1 0】第 2 実施例の判別方法を説明するための図であり、物体面にピンホールを有する調整部材を設置した状態の分光特性測定装置の概略図 (a)、及び結像面上に形成される輝点像 (b)。

【図 1 1】第 1 治具のねじのねじ込み量を変化させたときの輝点像の移動の様子を示す図。

【図 1 2】第 2 治具のねじのねじ込み量を変化させたときの輝点像の移動の様子を示す図。

【図 1 3】調整目標値の求め方の説明図。

【図 1 4】調整目標値から輝点像までの位置ずれ量の求め方の説明図。

【図 1 5】第 1 治具の変形例。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

C C D カメラ 1 3 は、受光面が受光した光の強度を検出する、2 次元配置された複数の検出画素を備えている。制御装置 1 4 は、C C D カメラ 1 3 の検出信号からインターフェログラムを求め、このインターフェログラムを数学的にフーリエ変換して測定光の波長毎の相対強度である分光特性 (スペクトル) を求める処理部 1 4 1、C C D カメラ 1 3 の検出信号から、位相シフタ 1 1 を構成する固定ミラー部 2 0 及び可動ミラー部 3 0 の位置関係を判別する判別部 1 4 2、処理部 1 4 1 の処理結果や判別部 1 4 2 の判別結果等を出力するディスプレイ、プリンタ等の出力装置 1 4 3 を備える。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 8 】

